

2022年度

医療安全対策委員会

活動のご紹介

タイムリーな医療安全課題や参加施設の困りごとの中から、テーマを絞って検討し、多職種で問題解決に向けた取り組みを行っています。内容は、各支部交流会に持ち帰っています。



今年度の検討例

01 CT・MRI撮影時の リブレ(皮下センサー型持続血糖測定器)貼付

リブレを貼った患者がCT検査のためにA病院に紹介された。センサーを外していただくよう説明したが、「かかりつけ医からそんなことは聞いていない」と立腹されました。2022年4月からリブレの保険適応が拡大したため、使用者が3倍に急増し、患者側・医療者側とも教育や知識が不十分なまま取り扱っている状況が分かりました。

取り組み

メーカーに報告し、
注意喚起を促すよう依頼
患者教育も必要

04 急変時に使える 救急カートの整備の工夫

- 引き出しにテープを貼るよりも、マグネットシートで「使用済」「点検済」を明示する。
 - 薬品をパッキングしておく、開封の有無で使用・未使用が一目瞭然。
 - アドレナリンの使用方法やACLSアルゴリズムをカートの天板に貼付すると使いやすい。
 - カートが第三者の手に触れないよう管理する。
- ※基本的に施錠は不要。即使用できる体制が重要。

取り組み

ACLS アルゴリズム



チェック後点検札



精神科では
縊首発見時用に
ハサミを準備

02 転倒・転落の大げが防止作戦、 多職種で取り組むには

ふらつきや健忘、長時間作用などの副作用により、転倒・転落を起こす可能性のある薬剤やベンゾジアゼピン系薬剤の調整は、院内で検討しましょう。多職種ラウンド、多職種カンファレンス、患者・家族の参画は、転倒・転落による有害事象の発生の低減に有効です。

取り組み

患者の安全は
患者・職員みんなで守る
チームの立ち上げはその風土作りに有効

03 RRS活動してますか？ (Rapid Response System)

入院患者の病状の急変の兆候をとらえて対応する体制として「院内迅速対応チーム」の整備のポイント

- ①仕組みがある、②予兆を捉える看護師教育、③要請基準、④職員への周知、⑤チームの活動範囲、⑥RRS活動の検証など、自施設の状況を確認してみましょう。

取り組み

クリニカルラダーに
BLS、ACLS、緊急時対応研修
を組みこむ等、教育を徹底する